第１回狛江市下水道総合計画策定検討委員会　会議録

１　日時　　令和７年１月 30 日(木)　午前９時 30 分～午前 11 時 30 分

２　場所　　狛江市役所３階　第一委員会室

３　出席者　委員　　坂邊 淳也、長岡 裕、五十嵐 秀司、都築 完、谷田部 英雄、一瀬 隆文

事務局　岩﨑 俊勝、音成 美貴、梅川 薫、岡本 尚

４　議題

（１）市長あいさつ

（２）委員、事務局紹介

（３）委員長、副委員長選出

（４）委員会の進め方

・会議の成立について

・会議の公開について

・会議録の作成方法と公開について

・スケジュールについて

（５）狛江市下水道事業について

（６）その他

・狛江市公共下水道社会資本総合整備計画事後評価について

・次回の会議について

（７）　市内施設見学

５　配布資料

資料１　狛江市下水道総合計画策定検討委員会の設置及び運営に関する規則

資料２　狛江市下水道総合計画策定検討委員会委員名簿

資料３　傍聴される皆様へ（案）

資料４　狛江市下水道総合計画検討スケジュール

資料５　狛江市公共下水道事業について

資料６　社会資本総合整備計画の事後評価について

資料７　狛江市社会資本総合整備計画事後評価シート

資料８　わたしたちのくらしと下水道

資料９　狛江市下水道総合計画（平成 26 年３月改訂版）

※参考資料　現場説明用パネル

6　議事概要

（1）市長あいさつ

―市長より開会のあいさつ―

（2）委員、事務局紹介

―各委員、事務局職員による自己紹介―

（3）委員長、副委員長選出

【委員】

委員長に長岡委員、副委員長に坂邊委員を推薦したい。

【全委員】

異議なし

―委員長を長岡委員とし、副委員長を坂邊委員として決定―

（4）委員会の進め方

【事務局】

―会議の成立について、資料1「狛江市下水道総合計画策定検討委員会の設置及び運営に関する規則」のとおり説明―

―会議の公開について、公開にて開催すること及び傍聴人の取扱いについて説明―

―会議録の作成方法と公開について、要点筆記とし、市のHPで公開する旨説明―

―スケジュールについて、資料4「狛江市下水道総合計画検討スケジュール」のとおり説明―

【全委員】

異議なし

（5）狛江市下水道事業について

【事務局】

－資料5「狛江市公共下水道事業について」に沿って説明－

【委員】

16頁について、有収水量が徐々に減っている理由を教えてほしい。

【事務局】

トイレ等の節水機器が普及したことにより、全体として減少傾向にある。令和2年頃に水量が上昇し、その後減っている。これは新型コロナウイルス感染症の拡大防止による緊急事態宣言で在宅者が増えたことで一時的に上昇し、その後市民生活が以前の状態に戻ったことで再度減少に繋がったと見ている。

【委員】
15 頁について、収益的収支のグラフは民間企業でいうところの損益計算書のようなもの、資本的収支についてはキャッシュベースの数字という理解でよろしいか。
【委員】
公営企業会計について、少し説明させていただく。公営企業会計はやや複雑であり、予算書と財務諸表を別で作る。収益的収支は損益計算書のようなものである。資本的収支は現金での収支になる。資本は通常赤字になるが、それを収益収支の自己財源で賄うことが一般的である。
【委員】
収益的収支と資本的収支の全体としてマイナスにならなければ良いという理解をした。資本の補填が 1.6 億円、収益は純利益が 1 億円、減価償却が 2.6 億円あり、キャッシュは全体として黒字になっている。これを考えると黒字経営と捉えてよいか。
【委員】
そのような理解で概ね問題ない。但し、収入において長期前受金戻入も実際は現金として入ってくるものではない。減価償却費と長期前受金戻入の差額分については内部留保されることとなる。
【委員】
減価償却費と長期前受金戻入の差額が 0.5 億円、当年度純利益が 1.1 億円、合計して 1.6 億円となり、資本の補填額と概ね合ってくる。
【委員】
仰る通り、年間の収支は釣り合っているということとなる。
【委員】
使用料収入について、未回収の使用料はどの程度あるのか。使用料収入の減少と未回収の使用料に関連はあるか。
【事務局】
下水道使用料は水道料金と同時に徴収しており、未回収という事例は少ない。本日は正確な金額を持ち合わせていないが、全体としてはごく僅かであり、使用料収入全体への影響はほぼ無いものと捉えている。
【委員】
今後のスケジュールをお示し頂いた。次回会議の前に資料は事前に送ってもらえるか。
【事務局】
事前に事務局より委員の皆様に資料を送付し、内容を確認して頂いたうえで会議を開催する。
【委員】
狛江市としての最重要課題、最優先の取り組みなどはあるか。

【事務局】
　下水道事業を持続することがまず前提としてある。そのうえで、近年の大きな課題は浸水対策と捉えて取り組んでいる。
【委員】
　承知した。浸水対策や先ほど説明のあった老朽化対策が課題としてあり、今後さらに支出が増える見込みという理解で良いか。
【事務局】
　ご理解のとおりである。但し、浸水対策は雨水事業のため、一般会計からの支出である。一方で老朽化対策は汚水が関係する事業のため、使用料収入から経費を賄うこととなる。
【委員】
　先ほど事務局からも説明があったように、今後は老朽化対策や地震対策、特に避難所等の重要施設に繋がる管路やポンプ場への耐震化が課題になると考えられる。これらについても具体的なデータを見ながら、今後の委員会の中でしっかりと意見交換していきたい。
【委員】
　現状の狛江市の収支は概ね健全と言える。但し、有収水量が減っているというトレンドが続くと経営的には厳しくなる。また狛江市では施設が供用開始から 50 年経過しており、老朽化が今後さらに進む。老朽化対策にさらなる支出が見込まれる。特に資本的収支の建設改良費が増大することが予想され、その財源をどうするかが課題になる。更なる借入をし、償還金が増え、また減価償却費も増えることを踏まえると、現在の使用料収入では賄えなくなる可能性もある。中期的な収支状況を考慮していく必要がある。

（６）その他　狛江市公共下水道社会資本総合整備計画事後評価について
【事務局】
－資料６「社会資本総合整備計画の事後評価について」に沿って説明－
【委員】
　もともと目標があり、それらは達成したということか。
【事務局】
　そのような理解で問題ない。

【事務局】
－次回の会議について資料４「狛江市下水道総合計画検討スケジュール」のとおり説明―

（７）　市内施設見学（見学場所：六郷排水樋管、庁用車で移動）
【事務局】
－現地へ移動、六郷排水樋管を見学し、施設概要及び浸水対策について現場説明用パネルを用いて説明－

【委員】
　ポンプ排水について、ゲートを閉塞した後はどのように排水するのか。
【事務局】
　ホースを堤防上に設置し、堤防を越えて河川側へ放流する。
【委員】
　ゲートはいつから電動化されているか。
【事務局】
　本施設は竣工時から電動化されている。狛江市が管理する猪方排水樋管については、手動式であったが、浸水対策の一環として電動化工事を行った。

【委員長】
　実際に施設を見ることで、理解が深まったと思う。今後も委員の皆様と議論を深め、計画策定を進めていきたい。第１回会議は終了とする。